

# 取組み報告書

令和6年度 福山市介護職員等負担軽減支援アドバイザー派遣事業

【社会福祉法人 健生会 ざおう健生苑 短期入所生活介護事業所】



一般社団法人  
日本福祉用具供給協会  
中国支部 広島県ブロック

# 施設の概要

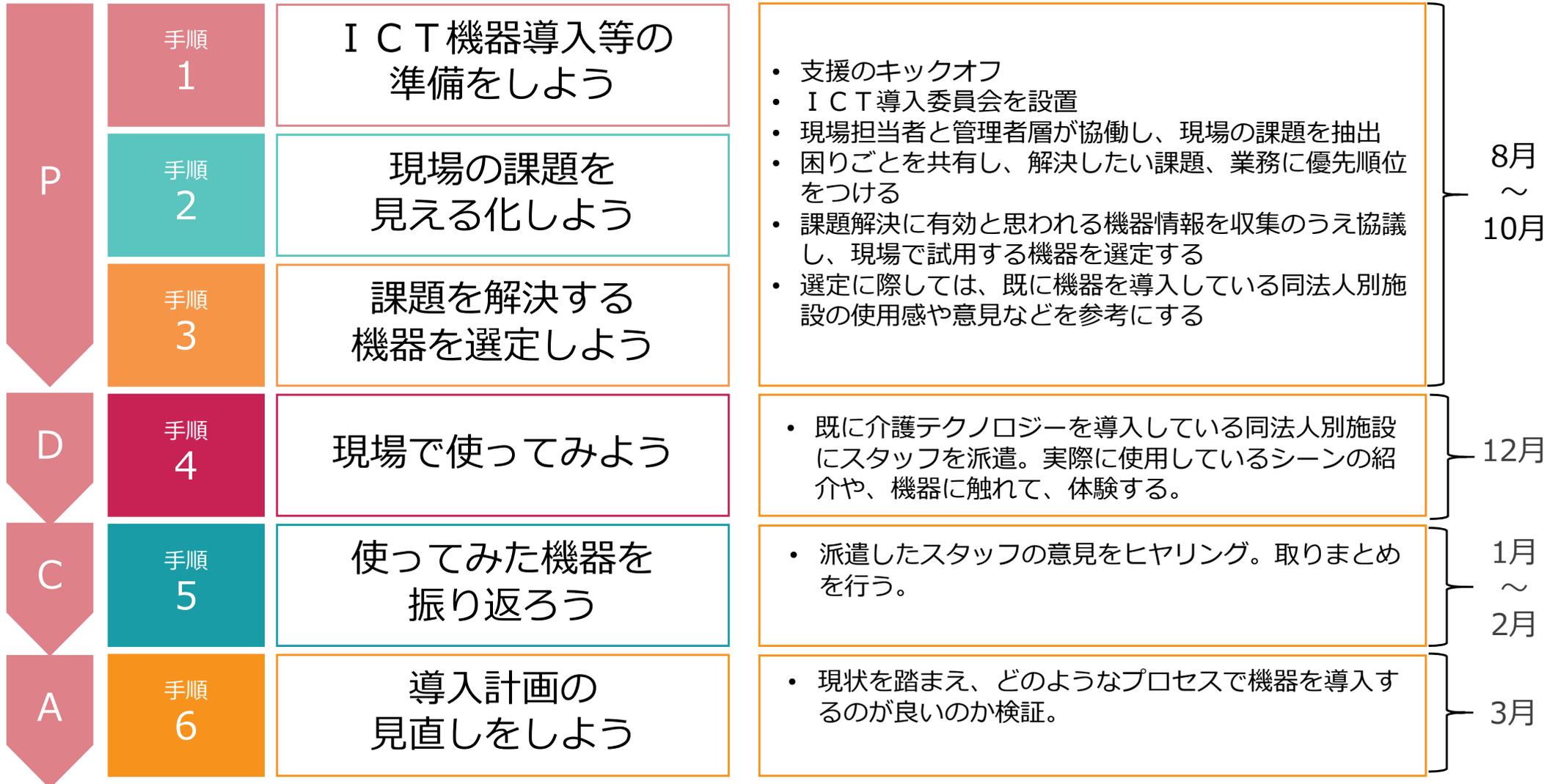


施設名	ざおう健生苑短期入所生活介護支援事業所
施設種別	短期入所生活介護
定員	50名
開設日	2015年4月1日
所在地	福山市日吉台2丁目26番13号

# 取組みの流れ

## 取組の流れ

## 具体的な取組み内容

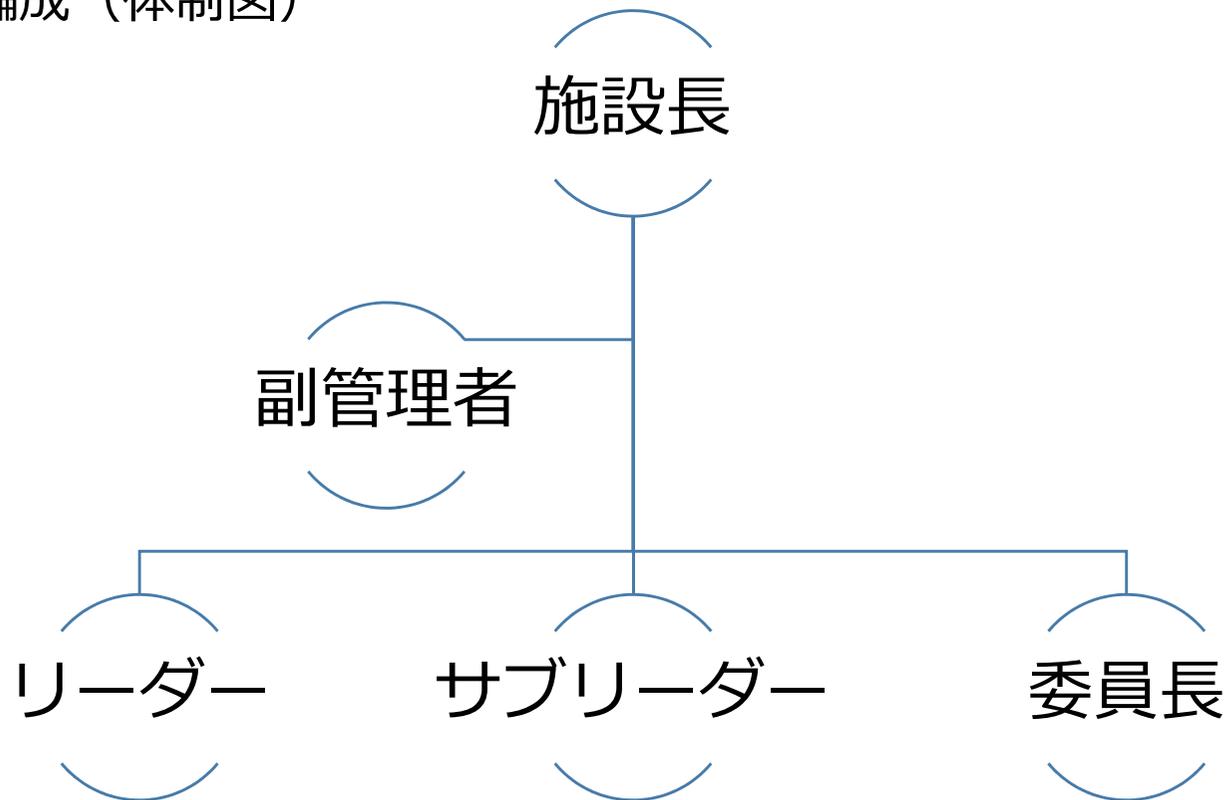


# 手順1 ICT機器導入等の準備をしよう

## 実施内容

- 業務改善活動を行う法人内施設を決定。
- キックオフとして、取組みメンバーを選任。
- 経営層、管理者、現場職員を構成メンバーとした。
- 取組みの流れ、取組み方に関する再確認。

### ■ チームの編成（体制図）



# 手順2 現場の課題を見える化するしよう

## 実施内容

---

- 各現場で起きている課題、困りごとを抽出。
- 現場職員に日々の業務についてアンケート調査を行う。

## 見える化された課題

---

- 手書きの記録に時間がとられ、ご利用者対応ができない
- 記録方法が手書きで転記も多いため、時間が掛かる。
- 記録の量が多い。記録する人に偏りがある。
- 多床室のため、利用者の行動を把握するのが困難。
- インカムを導入しているが充電頻度が多い等、利便性を感じられず、利用率が低い。
- 一人夜勤に限界を感じている。

## アンケートの結果、

- ①記録業務に負担を感じている職員の割合が約45%
- ②巡回・見守り業務に負担を感じている職員の割合が22%であった。

# 手順3 課題を解決する機器を選定しよう

## 今回選んだ解決したい課題

---

- 記録、夜間巡視を軸に機器を選定、試用する。

## その理由・背景

---

- 業務負荷が特にかかっているものが記録・夜間巡視という意見が多くみられ、現場、経営層とがともに了承した。

## 課題に対する現状

---

- 手書きの記録に時間を取られ、利用者対応ができない。
- 夜勤の1時間に一度の見回りが負担になっている。

## 解決した後の姿（目標）

---

- 紙での記録をデータ管理にすることで、情報共有がしやすくなり業務時間も削減できる。
- 見守り機器を導入することで、職員の負担を軽減し、ケアの質を改善できる。

# 手順4 現場で使ってみよう

## 実施内容

- 事業所の職員を4班に分け、既に機器を導入している同法人別施設に行き、実際に使用しているシーンの紹介や、機器に触れて体験する。

### 体験機器①（ケアカルテ・ハナスト）

URL : <https://www.carekarte.jp/>

### 体験機器②（見守り支援システム）

URL : <https://www.paramount.co.jp/connect>



# 手順5 使ってみた機器を振り返ろう

## 使用した結果（所感）

---

- 該当の施設に訪問したスタッフに対して個別にヒヤリングを実施。

## 集まった現場の声

---

- 見守り機器については、夜勤帯に有用性が見出せることは理解できた。
- 見守り機器があれば、夜勤の巡回業務に係る負担は軽減できるだろう。
- 記録は実用性が不透明。本当に業務負担が軽くなるのかイメージができない。
- PHSとスマートフォンとを現場で持ち歩いており、これでは煩雑ではないか？

職員の皆様は、介護ロボットやICT機器の導入に理解を示しているが、当該施設が導入している機器しか目にしておらず、本当にこの機器でいいのか不安な状況。

# 手順6 導入計画の見直しをしよう

## 振り返りを踏まえた今後の活動

---

- 特に介護記録ソフトについて別システムの情報を得ながら、現場スタッフを交えて比較検証（他のソフトの体験）を行う。
- 同一敷地内で利用している介護業務支援システムのライセンスを増やし、短期入所施設にてお試し利用を検討。まず、触れて慣れてもらい、デジタルは味方であることを体験してもらおう。

## 全体の総括（導入チームから）

---

- 現場スタッフの意見を尊重しながら、実用性のあるICTの導入、活用を進めていきたい。まずは触れることから始め、慣れていくことで利便性を実感し、生産性も向上するのではないかと考えている。
- ICTの導入、活用を起点にスタッフの確保、定着にもつなげたい。

# まとめ

## 全体を通してのコメント（アドバイザーより）

令和6年度 福山市介護職員等負担軽減支援アドバイザー派遣事業にエントリーいただき、誠にありがとうございました。当協会にてお力になれる範囲に限られる中、現場で率先して現場の業務改善に取り組まれており、今後この流れを止めることなく推進していただきたいと思います。

「本当にこれでいいのか？」と不安になることもあると思いますが、その際は一度立ち止まって、振り返りを行うことも大切だと考えております。

決して焦る必要はありません。現場の皆様と一丸となって、一つ一つ階段を上っていただくことが大切です。

引き続きよろしく願いいたします。



一般社団法人  
日本福祉用具供給協会  
中国支部 広島県ブロック